

価値創造の歩み

綜研化学の原点、そして進化の分岐点

戦後間もない1948年、物資や食料も乏しい混乱期に設立した総合化工研究所(現「綜研化学株式会社」)。戦後復興から高度経済成長期、そして社会はさらなる高度化と多様化へと大変革を迎える時代へ。激動の70余年、日本の成長とともに、そして世界の変化とともに歩み続ける綜研化学グループ。価値創造の原点、そして進化の軌跡をご紹介します。



創業

1948

「総合化工研究所」を設立

創業当時は、戦後復興へ貢献することを志し、油脂の加工・販売や小規模プラントの建設事業からスタート

1952

熱媒体油「SK-OIL」の製造・販売から本格的に事業を開始



1950年代

装置システム事業への展開

国産品として初めて特許出願を果たした熱媒体油の販売をはじめ、化学プラント設備の設計からコンサルティングまで幅広く展開

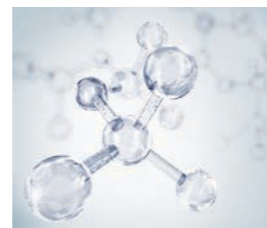


ケミカルズ事業への進出

1964

特殊機能材「サーモラック™」販売開始

塗料用アクリル樹脂の生産開始。アクリルポリマーの透明度と柔軟な設計性を活かした高機能ポリマーを幅広い分野へ展開



1965

アクリル系粘着剤「SKダイン™」発売開始

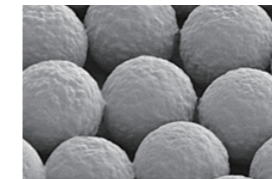
現在の主力製品であるアクリル系粘着剤「SKダイン™」は工業分野から家庭用品にまで広く展開



多様化・高度化

1984

微粉体「ケミスノー™」の販売開始



さまざまな素材に添加・混合することで新たな機能を生み出す製品「ケミスノー™」

中国事業の本格化

1994

加工製品の事業拡大

中国の経済成長を見据え、ケミカルズの地産地消モデル*の基礎となる中国子会社を設立。

粘着剤を自社設計する強みを活かした粘着テープなどの加工製品は建材、自動車、電子部品などに幅広く展開
*需要地に拠点を置き、現地に原材料の調達から生産、販売までを一貫して行うこと



2000

液晶ディスプレイ用粘着剤の市場シェア拡大

2000年代に入り、液晶ディスプレイを用いたパソコンの普及やスマートフォン、タブレット端末の登場などにより販売が急拡大。2010年以降は、中国を中心に液晶テレビなど大型液晶ディスプレイ用途の販売が伸長



2017
売上高300億円

2005
売上高200億円

2008
綜研化学アジア株式会社 設立

2011
綜研高新材料(南京)有限公司 設立

2002
綜研化学(蘇州)有限公司 設立

1991
売上高100億円

1994
寧波綜研化学有限公司 設立

過去30年間の売上高推移

■ 連結売上高
■ 海外子会社 売上高

新たな価値創造へ